



NO.489

Jul. 2013

CONTENTS

新入生セミナー

- 2 6 類新入生セミナー
- 3 7 類新入生セミナー

ニュース・イベント

- 5 第 35 回すずかけ祭報告
- 7 教育職場におけるセクシャルハラスメント防止（前編）
- 10 俳句になった東工大
- 11 職務表彰16名を表彰

お知らせ

- 12 附属図書館からのお知らせ

人事異動

- 14 謹告



6 類新入生セミナー



第 35 回すずかけ祭報告



職務表彰 16 名を表彰

俳句になった東工大

東京工業大学博物館 特命教授
広瀬 茂久

本学を題材にした句会が開かれたので紹介する。百年記念館の1階で休憩をしていた時だ。上品で朗らかなご婦人に声をかけられた。「飛翔」のパフレットを指差しながら「このモニュメントはどこにあるのですか？」と。TTFの前にある「飛翔」像は百年記念館の1階からも見えるので、「あそこです」と答えながら、簡単に作者（宮田 亮平 東京藝大 学長）や作品の説明をした。イルカがツバメになった話が面白かったらしく、「東工大のシンボルマークがツバメゆえに、世間一般でいう鳥瞰図は東工大では燕瞰図というのですね」と感心しておられた。こんなわけで、いつの間にか打ち解け、「実は、今日は吟行のためにここに来たのですよ」と来学の目的を教えてもらった。聞けば、日本女子大のOGの方々に、母校の生涯教育講座で俳句を学び、引き続いて自主サークル「立葵句会」を作って、月に一度の吟行を催しているとのこと。日本女子大といえば、知り合いも多いし、学生の頃は大学祭「目白祭」にも招待されたことがあるので急に親しみがわいた。それに何よりも、俳人の目には本学はどう映るのだろうという興味がわいて、「是非 句を送ってください」とお願いして記念撮影に及んだ。東工大を詠んでみようと思ったきっかけは、去年の10月18日から10日間開かれた博物館主催の「東工大で益子焼」に参加して興味を持ったからだそうだ。雰囲気よかつたらしい。

以下に立葵句会の皆さんの作品を掲げるので俳人の目で見たと東工大を鑑賞していただきたい。法人化後の「開かれた大学」施策が実り、着実に東工大ファンは増えている。

碧落の「飛翔」や学舎の春 <small>た</small> 開ける	昭女
億年の隕石の艶春深し	道江
鳥人を語る若人風光る	慶
麗らかや翼に夢を組み立てて	道江
空の護符つけてロケット <small>とみ</small> 轟ぐもり	敦雄
解説に夢 <small>みなぎ</small> 漲って工大の春	治美
学生の未来へ芽吹く大銀杏	信子

葉桜の下は板張り通学路	栄子
葉桜の静寂ゆたか真昼時	由美子
遠霞キャンパスにある富士見坂	美和



2013年4月11日 百年記念館2階展示室にて